

あいづっこ宣言から見えてくる日本人の哲学

—「あいづまちなかキャンパス」参加者の声—

青木滋之

0. この論文の内容

本論では、会津若松市内を中心に、市の教育委員会が推進している「あいづっこ宣言」を取り上げながら、日本人が持つ哲学の特質を考察していきたい。ここで哲学と言うのは、狭い意味での哲学（学問的な抽象的な理論）のことではなく、あいづっこ宣言に見られるような、小学生でも暗唱・実践できる道徳規範のことを指すものとする。「あいづっこ宣言」は、現代の会津若松市民が民主的に作成したと言われるものの、江戸後期～幕末までに見られた仕の掟をベースにしているのは明らであり、東洋の儒教的な「仕の掟」と、明治期の近代化（西洋化）以降の日本人の規範感覚との狭間に位置している。このせめぎ合いの中に、現代日本人の規範意識のアイデンティティがあるのではないか、という事を示唆するのが本論の狙いである。「あいづまちなかキャンパス」の参加者の様々な声が、その傍証となるものと思う。

本論の構成は以下の通りである。1. では、「あいづっこ宣言」とは一体どんなものであるのか、会津大学の哲学の授業を市民に公開した「あいづまちなかキャンパス」の様子と共に、説明する。2. では、「あいづっこ宣言」が作られた背景や経緯に触れ、続く3. では、「あいづっこ宣言」を市民や学生が検討していくことの意義について論じる。4. は本論の肝となる、あいづまちなかキャンパスの参加者の声を通覧する。最後の5. で、これら参加者の声を踏まえながら、浮かび上がってくる日本人の哲学について考察する。また、「あいづっこ宣言」の運用や改善について、幾つかの提言を行う。

1. 「あいづっこ宣言」とは、「あいづまちなかキャンパス」とは

会津若松駅や、市内のスーパーマーケット、會津稽古堂のような公共施設、観光名所などに、「あいづっこ宣言」という標語のような看板をよく見かける。

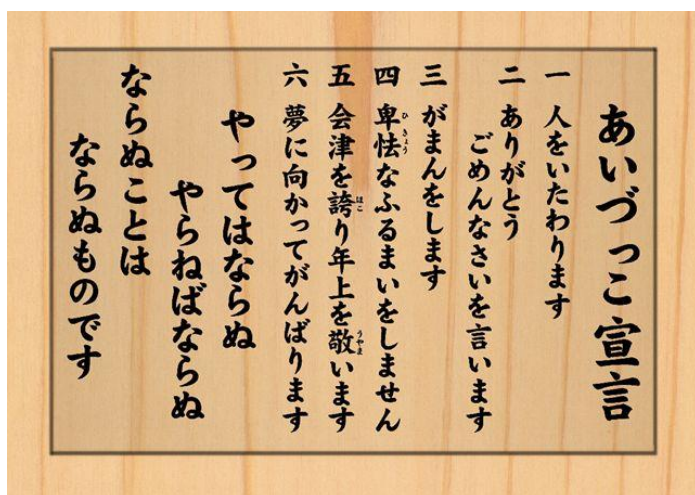


「あいづっこ宣言」の一例
於會津稽古堂（2018年9月28日撮影）

私も 2009 年秋に会津大学に赴任してから、程なくしてこの標語の存在に気付いた。大学の研究室の扉に、張り付けているところもあった。それにしても、締め括りに現れる「ならぬことはならぬものです」という言葉は、どんな意味なのだろうか。これだけが単体で表示された標札も駅前にはあり、当初は意味がよく分からなかった(注 1)。その後、「～～してはいけません」といった複数のルールの締め括りに「ならぬことはならぬものです」が提示されているのを見て、「やっていけないことは、やってはいけません」と言っているのだな、と何となく推測することができるようになった。

「あいづっこ宣言」は、次のような一連の行動指針からなっている。

- 一 人をいたわります
 - 二 ありがとうごめんなさいを言います
 - 三 がまんをします
 - 四 卑怯なふるまいをしません
 - 五 会津を誇り年上を敬います
 - 六 夢に向かってがんばります
- やっではならぬやらねばならぬ ならぬことはならぬものです



市のホームページより (<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2007080601668/>)

私は、会津大学の教養科目「哲学」を担当しているが、社会教育委員の一員として會津稽古堂（中央公民館）の方々と付き合いがあり、この「哲学」の授業数コマをあいづっこ宣言の検討に充てて、一般市民にも公開し、あいづっこ宣言について皆で話し合いませんか、という提案を行った(注 2)。まちなかで大学授業を行う、という意味合いを込めて、「あいづまちなかキャンパス」というイベント名になった。會津稽古堂のつてで、市の教育委員会であいづっこ宣言を推進している職員の方や、あいづっこ宣言の元となる会津藩時代の歴史に詳しい県立博物館学芸員の方に、外部講師として話してもらうなど、授業内容充実という観点からも、このあいづまちなかキャンパスは望ましいものと思えた。

これまで、「哲学」を起点とするあいづまちなかキャンパスは、2017 年度と 2018 年度の 2 回行ってきているが、それぞれのプログラムは以下のようにになっている（当日に配布されたプログラムおよびスライド資料より）。

【2017 年度】

會津稽古堂・会津大学協働事業「あいづまちなかキャンパス」

日本人を『哲学』する！

～今に生きる会津藩の教え「ならぬことはならぬ」のルーツをさぐる～

時間	主な内容	講師
～9:15	受付	生涯学習総合センター
9:15～9:30	オリエンテーション	会津大学 青木 滋之 上級准教授
9:30～10:10	講義①：ご存知ですか 「あいづっこ宣言」	会津若松市教育委員会 星 悠斗 主事
10:10～10:20	休憩	
10:20～11:30	講義②：『会津藩家訓』を読み解く	福島県立博物館 阿部 綾子 主任学芸員
11:30～11:40	休憩	
11:40～12:10	グループワーク（ルーツをさぐる）	青木 滋之 上級准教授
12:10～13:10	昼休み	
13:10～14:20	講義③：「近代（西洋）化と日本人」	青木 滋之 上級准教授
14:20～14:30	休憩	
14:30～15:45	グループワーク（まとめ） 「あいづっこ宣言」について	青木 滋之 上級准教授
16:00	終了・解散	

7/15 Discover your new Aizu

會津稽古堂・会津大学協働事業「あいづまちなかキャンパス」

日本人を『哲学』する！

～今に生きる会津藩の教え「ならぬことはならぬ」のルーツをさぐる～

2017/7/15(土) 受講者募集



講師

会津大学 コンピュータ理工学部 文化研究センター
上級准教授 青木 滋之
福島県立博物館
主任学芸員 阿部 綾子



日程

9:15～10:00 講義『あいづっこ宣言』を学ぶ
10:10～11:20 講義『会津藩家訓』を読み解く
11:30～12:00 グループワーク（ルーツを探る）
13:00～14:10 講義「近代（西洋）化」と日本人
14:30～15:30 グループワーク（意見を交える）
15:30～15:45 本日のまとめ

※服装は参加者各自でご用意願います。



申込

申込みは、会津若松市教育委員会生涯学習総合センター
會津稽古堂まで①・②のいずれかの方法でお願いたします。
①電話 (0242-22-4700)
②FAX (0242-22-4702)、ハガキ・封書など
※宛先 〒965-0871 会津若松市栄町3番50号
※②の方法で申込みの場合には、郵便番号・住所・氏名
年齢・性別・電話番号を明記してください。

場所：會津稽古堂多目的ホール

締切 7月8日(土) 先着30名

内容

みなさんは『あいづっこ宣言』や『仕の提』、『会津藩家訓』についてご存知ですか？
歴史的・比較文化的な幅広い見地から会津の文化や歴史を見つめなおすと、
実は「あたりまえ」だと思っている“日本人・会津人”に関する**新たな発見**が！
7月15日、会津大学生と地域のみなさんが一堂に会し、日本人や会津人の
思想や心算がどこから来たものなのか、一緒に『哲学』しましょう！
講師は会津大学青木先生、福島県立博物館阿部先生。その他にも市教育委員会あいづ
っこ育成推進室の職員や、生涯学習総合センターの職員等が参加者のみなさまと学び
を深めて参ります。年齢・性別・出身すべて関係ありません！ぜひお申込みを！



会津大学生と一緒に 哲学と会津を学びませんか？

一般市民参加を呼び掛けた、2017 年度ポスター

【2018 年度】

時間	主な内容	講師
9:00～9:30	受付	生涯学習総合センター 多目的ホール
9:30～9:45	趣旨説明	会津大学 青木 滋之 上級准教授 生涯学習総合センター 南雲 誠 主任主事
9:45～10:15	ご存知ですか 「あいづっこ宣言」	南雲 誠 主任主事
10:15～10:25	休憩	
10:25～11:00	講義①：「学ぶことの意義」 ～稽古堂そして日新館～	会津歴史考房主催 野口 信一 先生
11:00～11:10	休憩	
11:10～11:40	講義②：「かゆい所に手が届く」 ～会津藩の青少年教育～	野口 信一 先生
11:40～12:00	お昼の説明	
12:00～13:00	昼休み	
13:00～13:30	講義③：「歴史に学ぶ」 ～会津藩はなぜ敗れたのか～	野口 信一 先生
13:30～14:10	講義④：日本人とは何か 一東洋と西洋の間（はざま）でー	青木 滋之 上級准教授
14:10～14:20	休憩	
14:20～15:50	グループワーク	青木 滋之 上級准教授
15:50～16:00	まとめ	青木 滋之 上級准教授
16:00	アンケート記入・解散	

2017 年度と 2018 年度の大きな違いは、講師として、2017 年度は県立博物館の阿部先生にお話し頂いたのに対して、2018 年度では会津歴史考房の野口先生にお話し頂いたこと、である。阿部先生の講義は、保科正之公の家訓（かきん）の原文および、歴代家老による解釈といった一次資料に基づく、原文に忠実な方向性の講義であったのに対して、野口先生の講義は、当時の世相や環境、制度、気質といった、会津藩での教育全般に触れるものだった。双方聞いた私の印象としては、阿部先生の講義は、職人氣質的な「堅実」なものであったのに対して、野口先生の講義は、戊辰戦争 150 年記念に合わせた「教訓」的なものであった、という違いがあったように思う。それぞれの年の講義に基づき「あいづっこ宣言」について意見陳述を行った学生のレポートが、2017 年度では肯定的な意見が多かったのに対して、2018 年では「あいづっこ宣言は廃止した方がいい」というかなり否定的な意見まで見られるようになったのは、おそらく、基調講義となった阿部先生および野口先生の、会津藩の精神や教育に対する全体的トーンが、影響を及ぼした可能性があるのではないかと考えられる。

なお、「あいづまちなかキャンパス」当日の様子については、会津若松市のホームページに写真付きで掲載されているので、是非ご覧頂きたい(注3)。

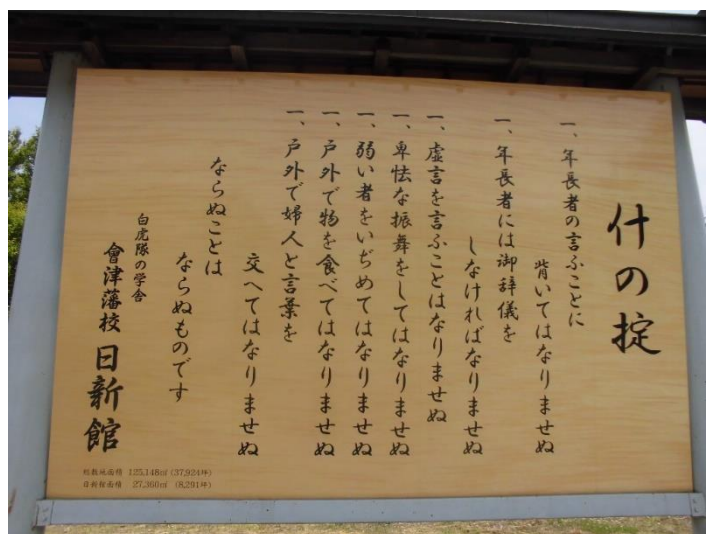
2. 「あいづっこ宣言」が成立した経緯

2017 年、2018 年の哲学の講義で考察対象とした「あいづっこ宣言」であるが、いつから、どのようにして始まったのだろうか。まず、見て気付くことは、あいづっこ宣言が、会津若松城下での「什（じゅう）の掟」と呼ばれた、什（武士の家の6歳以上の子どもからなるグループ）が復唱していたルールと大変似ている、ということである。什の掟は、什ごとに細部が異なっていたようだが、実に驚くべきことに、文書としては一切残っていない（江戸時代の会津の歴史に通暁されている阿部綾子先生や、野口信一先生に伺ったところ、そのように返答されていた）。なので、現在となっては誰も正確に／確実にその内容を答えられる者はいない。しかし、会津藩の歴史に関する書籍や、博物館で販売されている図録などを見る限り、次のような内容であったようだ(注4)。

- 一、年長者[としうえのひと]の言うことに背いてはなりませぬ
- 二、年長者にはおじぎをしなければなりませぬ
- 三、うそを言うてはなりませぬ
- 四、卑怯な振舞いをしてはなりませぬ
- 五、弱い者をいじめてはなりませぬ
- 六、戸外[そと]で物を食べてはなりませぬ
- 七、戸外で女と言葉を交わしてはなりませぬ

ならぬことはならぬものです

会津若松市郊外、河東にある會津藩校日新館（江戸時代後期の鶴ヶ城城下の日新館を復元した観光施設）の入り口にある大きな立て看板にも、ほぼ同じ内容の「什の掟」を見ることができる。



會津藩校日新館にある什の掟
(2017 年 6 月 20 日撮影)

一切文書による記録がないにもかかわらず、このように一字一句まで復元されているのは実に不思議なこ

とではあるが（現代にある、あらゆる「仕の掟」の情報源を辿っていけば、江戸末期～明治時代の生き証人による証言であるとか、あるいは、もっと後世に生きた者が伝え聞いた記録、あるいは、それらが明治期か大正期に活字化された書物等に行きつくのかもしれない）、この仕の掟が、あいづっこ宣言の根底（ベース）に流れているのは、まず間違いないだろうと思われる。締め括りの「ならぬことはならぬものです」が全く同じであるし、市のホームページにも、

「あいづっこ宣言」は、本市に脈々と受け継がれてきた青少年育成への熱い思いを、会津の伝統的な規範意識を踏まえ、取りまとめたものです(注 5)。

とある通りである。しかし、2017 年度の講義で、市教育委員会の星悠斗主事が強調されていたように、「あいづっこ宣言」は、「仕の掟」の現代語訳では決してない。この点を誤解している人が実に多い。

それでは、「あいづっこ宣言」はどのように作られたのだろうか。最も詳しい情報は、現在オンラインで公開されている「“あいづっこ宣言”の策定経過」というページに記載されている(注 6)。

策定の背景については、かいつまんで説明すると以下のようになる。あいづっこ宣言が制定された平成 14 年当時、全国的に青少年の犯罪増加が社会問題となっており、会津若松市でも、補導される青少年が増加し、刑法犯少年の総数が 400 人を越えるなどの問題を抱えていた。その背景として、(1) 基本的なルール認識が希薄化していること、(2) ルールを自分勝手に解釈し一方的に主張する傾向があること、(3) 子供の生活からゆとりが失われ人間関係の中から社会性を習得する機会が失われていること、が指摘された。そこで、家庭・学校・地域が共通指針のもと、一体になって青少年をめぐる問題に取り組んでいくことが必要だと考えられた。この共通指針に相当するのが、あいづっこ宣言である。

策定の経過は、下にある通りである(注 7)。ここでの大事なポイントは、市民からの有識者による会議を設置した後、学校関係者や警察関係者からヒアリングを行い、市民からの意見を募集したりと、市民主導の形で進められていったことである。民主主義的な手続き上の妥当性がどれだけあるのか（典型的な問題としては、策定に関与しなかった大多数の市民の意見はどうなるのか、同意を得ているのか等）、疑義がないわけではないが、役所や教育委員長が「上」から押しつけたものではない、という点が確認できる。

●経過

平成 13 年 5 月 有識者 6 名による「青少年の心を育てる市民行動プラン策定会議」を設置
6～7 月 青少年非行の現状を学校・補導関係者及び警察関係者からヒアリングし、意見交換
8 月 市政だよりにプランの趣旨を掲載し、市民からの意見募集
9～12 月 青少年の心を育てる市民行動プランの素案作成と提言書へのまとめ
平成 14 年 1 月 25 日 「青少年の心を育てる市民行動プラン（素案）」提言書を市長に提出
平成 14 年 2 月 13 日 庁議において提言どおり決定

策定後、会津若松市青少年育成市民会議が推進母体となり、各地区では青少年育成推進協議会を中心として普及活動を行ってきている。例えば、あいづまちなかキャンパスでの紹介（ご存知ですか「あいづっこ宣言」）では、市教育委員会の星悠斗主事が実際に小学校に訪れ、小学生と一緒に「あいづっこ宣言」を復唱指導しているシーンが動画で紹介された。私の子供も市内の小学校に通っているが、1 年生のときにあいづっこ宣言の暗唱に取り組み、家の中で、親の前で暗唱する宿題に取り組んでいた。その後、名刺サイズの合格証を獲得して、私に見せつけてきたこともよく覚えている。

こうした取り組みが続き、本論冒頭で見たような「あいづっこ宣言」の標札が、会津若松市内の至るところに設置されるに至っている。星悠斗主事が言うには、市から頼まれてもいないのに、自主的に標札を立ててくれる人もいたので大変助かる、とのことだった。現在では、市のホームページによると、野口英世青春通りなど市内の18カ所で「あいづっこ宣言」の標札が掲げられている。

3. 「あいづっこ宣言」を市民・学生で検討する意義

前節で述べたように、「あいづっこ宣言」は役所や教育委員会が定めたものではなく、あくまでも市民主体で推進されてきたものである。しかし、策定に直に関わったのは「唯識者6名」にすぎず、大多数の市民・学生は、内容を検査したわけではない。また、内容の理解や、実質的な普及活動、活用などについては不断の市民主体の努力が要されるのは、言うまでもないだろう。例えば、「あいづっこ」という宣言の名称であるが、これは「会津に住む子供」のことではない。北海道の「どさん子」のように、「会津に住んでいる人」全般を指す言葉なのである(注9)。あいづまちなかキャンパスに参加したほとんどの市民・学生は、この事を全く誤解していた。このように、実は初歩的なところで、あいづっこ宣言は市民に正しく伝播していない。何となしに眺めるだけでなく、定期的に、「あいづっこ宣言」のきまり1つ1つに、どのような思いや意味が込められているのかを、振り返ることが必要であろう。

また、私が知る限り、「あいづっこ宣言」は策定された後、その教育的効果や普及率などを調べた調査は存在しない。作りっぱなし、という状態のままなのである。本論では、あいづっこ宣言が、青少年の犯罪抑止になるか、青少年の規範意識向上に資するのか、といった事柄に関してメスを入れることは全くできていないが、あいづっこ宣言に対する市民・学生目線での意見はどのようなのか、実態を把握する上での生データ（生の声）を提供したい。そうした観点から、有益な情報を提供できることを期待している。

4. まちなかキャンパス後の、学生レポートの声と、付箋紙の声

「あいづっこ宣言」についての、受信者の感想や意見を、本論では2種類の生の声から提示する。1つは、まちなかキャンパス参加後に学生に課したレポートであり、もう1つは、まちなかキャンパスでのグループディスカッション後の感想を、参加者（会津大学生、一般市民、稽古堂職員、ザベリオ高校の高校生）全員にお願いして、付箋紙1枚に短く書いてホワイトボードに貼ってもらったものである（こちらは、2018年度のみ実施した）。

学生へのレポート課題は、2017年度／2018年度ともに、次の通りであり、共通している。

□レポートの内容

まちなかキャンパスのグループワーク(各テーブルでの話し合い)、あるいは、本日のまとめ(ホワイトボードに張り付けられたポストイット)に出てきた優れた意見をまとめた上で、「あいづっこ宣言」について、自分の考えを論じなさい。(2400文字以上)

付箋紙の一言意見（2018年度のみ）については、各グループでのディスカッション（1時間強で、あいづっこ宣言の是非について話し合ってもらった）後、次のような指示を出して記入してもらった。

成果を共有し、「見える化」しよう

最後に、印象に残った話題といった「気付き」、みんなで「共有したい」と思う話題を付箋1枚に1つ記入して、できるだけたくさん、ホワイトボードに貼り付けよう。他のテーブルでどのような話があった

か、眺めてみよう。

レポートおよび付箋紙で、どのような生の声が見られたのか、以下に箇条書きで列挙していく。生の声そのものを提示することに意義があると思うので、日本語として不自然であったり誤字があったとしても、そのまま掲載している。ここで1つ問題になるのは、長文レポートの「生の声」をどのように提示するか、である。付箋紙の場合は、短くコンパクトにまとめられているので、そのまま提示することに問題はない。しかし、レポートは2400文字なので、どの部分を切り取るかが難しい。本論で私は、基本方針として、1レポートにつき1つの意見を抜き出すことにした。なぜなら、レポートの中には結論に至るまでに、様々な意見が錯綜するが、最終的には1つの意見へと収斂するよう、レポートは（現実的に／理想的に）論述されるものだからである。なので、途中過程で様々な考えや意見が出てきたとしても、それらを1つ1つ取り上げることはしないことにした。ただし、1つの意見へと収斂されず、複数の意見が並記されたレポートについては、不本意ではあるが並記のまま提示した。

【2017年度のレポート】

- 1 民主主義社会として会津市民全体で、もう一度あいづっこ宣言について考え直していくべき
- 2 「現代を生きる個人」の確立の育成において、文言としての押しが弱いことがあいづっこ宣言における不足である
- 3 会津人が守るべきもので、守ることで古くから受け継いできた人としてのあり方や考え方を学び、さらに未来にまで伝えるべきものである
- 4 近代以降に生きる私たちにとっては、什の掟、会津藩家訓の精神をそのまま使うのは難しいと感じた／この宣言に書かれていることは人間としてできて当たり前なことなので、必要ではないのではと感じた
- 5 はっきりとした役割があるようには思えない。策定当初の目的を果たしているようにも思えず、やり方としても危ないように思える。そのため、不要であると考え
- 6 大人に認知されていない、「ならぬことはならぬものです」という文を誤った認識で使われているといった問題点がある。その問題を解決するには、「こ」は「子」ではなく、「人」であることを知ってもらい、大人たちが正しい知識を広めることである
- 7 この宣言について学んで、他の地域でもこのような取り組みを行い、人々の心を豊かにしていくべきだと感じました
- 8 あいづっこ宣言は什の掟と会津藩家訓という古くからある二つの思想や行動が受け継がれていきできたものであり、これからの受け継いでいくべきものである
- 9 「あいづっこ宣言」などという掟のようなものなど、本来必要なものではなく、社会という枠組みから外れない範囲で、自分の心の中で自分が正しいと考えたことに基づいて生き続けるしかない
- 10 あいづっこ宣言には学べるところがいくつかあると思うが、不備があるのも事実である。そのため、新しいものを作り、私たちが伝統として伝えていきたい
- 11 あいづっこ宣言は、現代で生まれながらも、会津や日本が受けた近代化の象徴でもあり、新しい会津藩家訓の形でもある
- 12 自分の子供にこの「あいづっこ宣言」を伝えて、「什の掟」と同じようにず[ママ]何年も守られ続けてほしい

- 13 親から子へと教えられていくことで、今までの会津の歴史も後世へ引き継げるすばらしいものであり
これからの会津には必要不可欠な存在となる
- 14 人生における行動判断の基準を形成するための型であり、個人がその中身を埋めていくことで成り立
っていくものである
- 15 あいづっこ宣言の解釈は様々なものがあり、そのことを議論することがあいづっこ宣言の存在意義に
なっていると考え
- 16 この宣言が作られてから、まだまだ日は浅いが、これから普及活動に力を入れ、会津若松市民全員が
考え、誇りを持てるようなものにしていく必要がある
- 17 今後相続していき、全国にその考えの良さを伝えていくべきである
- 18 什の掟や会津藩家訓から多くの影響をうけてはいるが、根本は現代の道德と同じものだと考えられる
とともに、子供だけでなく、大人にあいづっこ宣言は受け入れられるべきだと考える
- 19 「あいづっこ宣言」は、正しく、決まりを守って生きる人間像を目指して作られたものであると思う
- 20 物事を吸収し、自分の血肉とし易い少年少女の時代に価値観や道德観を固定化しかねない「あいづっ
こ宣言」を教えることは、急激に変化する社会を生き抜くための適応能力を奪うことにつながるの
ではないかと憂慮している
- 21 これから4年間、會津にお世話になると思うのであいづっこ宣言を頭に入れながら生活をしていき
たいと思います
- 22 この宣言は説明が足りないなと感じました／『ならぬことはならぬ』は・・・固い考え方である場合も
あるのではないかと、・・・そういう意味では思考停止に近いものである気がしました
- 23 このような議論を重ねることであいづっこ宣言の意味を深められるし、あいづっこ宣言の改善策にも
なるのだらうと思いました
- 24 全ての人にも共通の認識が行き渡れるような表現に書き改める、・・・込められた想いをもっと主張し
ていくべきだと私は考える
- 25 言い方の表現の仕方をもっと柔らかくしたほうが良いのではないだろうか・・・そのことだけを気を付
けて作成していればもっと良いものになっただろうし、誰もが納得できただろう
- 26 あいづっこ宣言について賛成だ。理由は二つある。一つ目は、・・・理解した子供が規範を守ること
で、大人になったときにその経験が生かせるからだ。・・・二つ目は悪戯や、犯罪を起こすような子供が減
るからだ。
- 27 すべての宣言を、会津藩家訓、什の掟のように、禁止を示すような文章ではなく、～します、という
能動的な文章で書くことで、会津若松市民のみなさんのあいづっこ宣言に対して積極的で、前向きな
思いを持って考えられたものなのだと思います
- 28 『あいづっこ宣言』は『什の掟』から生まれたものなのか、それとも本当に元にしただけで別物とし
てちゃんと知られているのか、私はそれについてさらに深く知りたいと思う
- 29 その対象者が会津若松市民全員だということが知られておらず、また内容についても正しく理解して
いる人は非常に少ないように思える。よって「あいづっこ宣言」を正しい理解で広めるためには現状
の方法を変える必要があ[る]
- 30 「わかりやすい」「唱えやすい」「訴えやすいものとした」・・・とあるが、討論するたびに疑問点が多数
発生する。また・・・閉鎖的で発展があまり見られないと思う。しかも、「あいづっこ宣言」に書かれ
ていることは常識的に考えると当たり前のことばかりであるのは、ちょっと物足りない。
- 31 あいづっこ宣言を広めるためにはその内容に対する理解が必要不可欠であり、現状それは不完全であ

- る。その解決策として、誤解を生みづらく老若男女にわかりやすい映像を市主導で制作すべき
- 32 「あいづっこ宣言」の内容は会津地方のひとたちだけでなく、他の地域のひとたちにも知ってもらべき内容だ。だから自分も「あいづっこ宣言」の名が全国的に広まっていくことを応援したい
- 33 今回の「あいづまちなかキャンパス」をとおして地域の住民と直接触れ合うことができ、今までなぞが多かったあいづっこ宣言についてくわしく知ることができ[た]
- 34 「あいづっこ宣言」をきっかけに、子供たちがこれからいろんな体験を積み重ねて、自分にとって生きる上で何が大切なのか、何を守るべきなのかを考えて、自分の価値観を創造していけたらよいのではないかと思う
- 35 あいづっこ宣言にはまだ改善すべき点が存在するということである[が、]・・・それでも私は、あいづっこ宣言は改められるべきではないと考える。その理由は以下の二点である。第一に、あいづっこ宣言のルーツが伝統的だからである。・・・第二に、あいづっこ宣言は現代の民主主義社会にふさわしいからである。
- 36 市内の小学生が暗唱するなどしているが、その6つの行動規範の一つ一つを読み解くと、大人にとっても重要なことが書かれている
- 37 「あいづっこ宣言」は覚えさせるのではなく、「あいづっこ宣言」の内容や考え方について深く理解させる場を設けることで人によって違う意見や考え方を学び、自分の精神に根付いた自分だけの「あいづっこ宣言」を創らせるために使ったほうがいいと思った
- 38 歴史を大事にしてかつ、よりよい宣言を作ることが、あいづっこ宣言を世界に広めていくためにとても重要なことだと思います
- 39 あいづっこ宣言というものの自体はとても素晴らしいと思うが、内容をもう少し現代の環境に沿って考えなおしてもよかったのではないだろうか、また、せっかく他県他地域からまねしたいと思われるようなアイデアなのだからもっと形あるものなどでアピールしてもいいと思う
- 40 あいづっこ宣言にはメリットだけでなく、3つ目の「がまんをします」の必要性の問題や地域への固執の問題、歴史への固執の問題があると思います
- 41 あいづっこ宣言を最も多感な時期で影響を受けやすい中高生向けに作るべきだと思う。・・・次に、・・・年長ばかりを敬うとすると、その年長はただただ付け上がっていくだけで余計に閉鎖的な街になってしまう。やはり、今の時代みんなで支えあっていき、互いが互いを敬っていけるような街へとしていくべきだと私は思う。
- 42 この考えは会津だけでなく全国に広がると良いと思う。このあいづっこ宣言を実行することで、人としての成長により人としての価値が上がり、人生もより良くなると思うからだ。
- 43 端的にまとめてあるにも関わらずとても深い意味がこめられていて、市と市民を守るために努力する姿に魅力を感じた。・・・しかし、・・・あいづっこ宣言にこめられた意味を理解できず正しく捉えることができないのではないだろうかと思問に思った。
- 44 あいづっこ宣言の改定を提案したい。せっかく「宣言」と称している[ママ]のだから、もっと高い目標にしたほうが市民の団結力が増すだろう。例えば、会津の文化や歴史をより多くの人に知ってもらうといった主旨にすれば、地域の活性化につながる。
- 45 「会津人」の性格なくして作り上げることは出来なかったものだ。まさに、今日あいづっこ宣言を唱えているこどもたちが成長し、いつかそれを理解したとき、またその人は「会津人」となり、その精神を訴え、「会津魂」はいつまでも脈々と受け継がれていくのだ。
- 46 「あいづっこ宣言」をより良いものにするためにイメージを変えなければならない・・・一部の市民

にとっては良い規範となっているが、一方では本来の作成者の意図を捉え間違えて、特に大人が対象は中高生や子供であると誤認してしまい逆に大人の社会性・マナーの低下を促していると感じる

47「あいづっこ宣言」は良い街づくりが出来ると思うが、・・・一部のお年寄りが勘違いしている。なので、私の考えはお年寄りを労わるという事も、勿論「あいづっこ宣言」の内容として、さらに「皆、平等である」という事を一緒に会津住人で唱えて欲しい。

48 会津藩家訓や什の掟を元にして作り現代の時代にあうように考えられたものではありませんが、それでも今の時代にあったものではないと考えます。今の時代はまず、皆が平等であるという考えが前にきます。

49 会津若松市はあいづっこ宣言を暗唱させることや、あたかもあいづっこ宣言で示されている像が理想であるかのように騙る教育をやめるべきだ・・・あいづっこ宣言を暗唱させるということは、表面的な価値基準を子供たちに強要し、体系的な価値基準の構築を妨げる。結果として多種多様な思想や人格の発生を妨げることに繋がってしまう。

50 子供に暗唱させ、心に刻みさせたいのであれば、もう少し詳細な内容を付け加えるべきではないだろうか。そうすれば、子供も少しは理解しやすくなるのではないかと思う。

【2018 年度のレポート】

- 1「あいづっこ宣言」は子供たちに簡単に社会の基礎となる道徳や礼儀を教え、きっと立派な社会人としての、ひとりの人間としての土台を築くきっかけになってくれると思う。・・・時代は移り変われど、「あいづっこ宣言」のように昔のいいところが今に活かされているのは素敵なことだ。
- 2「あいづっこ宣言」には前向きであったり礼儀を重んじ、人として正しい行いをしようというよいところも存在するが、文言の意味の不完全さや子どもに比べて大人の取り組みの意識の低さ等の欠点も存在し、やはりまだ改善の余地があるのではないかと思います、まだまだ未完成である印象を受けた。
- 3「あいづっこ宣言」は会津にある歴史の存在、そして、その歴史を誇りに思う会津人の郷土愛があったからこそ受け入れられたものであるといえる。
- 4 多少なりとも改善の余地はグループディスカッションで明確になったが「会津っこ宣言」は人と人との関わりを大切にし、世界に紹介してもなんら恥ずかしくないしっかりと会津と歴史を踏襲した教育指針であると考えてる。
- 5「我慢をします」「年上を敬います」「夢に向かって頑張ります」といったあいづっこ宣言の項目は現代社会では適応しづらいものであり、また「ならぬことはならぬものです」については本来の意味とは違った解釈をしてしまう可能性があるため、誤解を招かないように改善した方が良いと考える。
- 6「あいづっこ宣言」は悪いものではないものの、その宣言文の一文に小さくない問題があるため、それらは改善する必要がある・・・その中でも特に問題があると私が思っているのが、宣言3と宣言5である。
- 7 様々な意見交流から私はもう一度「新、あいづっこ宣言」的なものを作成するべきだと考えた。その根拠として、グループワークでの多くのネガティブな意見から欠点が大いにあるということが分かったからである。
- 8 あいづっこ宣言は現代人との間にギャップを抱えている。それを解決していくためには、現代人に対する意識の理解、そして誰にでも伝わる会津の魂が不可欠である。

- 9「あいづっこ宣言」も本来は、自分で決めたことを通そうということだったはずである。そのため、・・・
他人が考えた宣言をそのまま暗唱するよりも、自分で自分なりの「あいづっこ宣言」を考えていくと
いうことが現代のあいづっこにとっても重要であると考えた。
- 10「あいづっこ宣言」[は]もっと広めるべきであるのと同時にもっと明確にするべきである
- 11「あいづっこ宣言」は過去の会津の文化を継承し、アレンジを加えて現代人にも飲み込みやすい形に
はなっています。しかし、・・・まだまだ会津地方に浸透していなかったり、「あいづっこ宣言」に使
われている言葉の意味が曖昧であったり改善の余地が多くあると思います。
- 12 あいづっこ宣言は会津若松市民の多くに浸透していて、歴史的な観点からも会津藩の教えを風化させ
ずに現代に生かしているといったことから会津若松市にとって欠かせないものとなっている。しかし
そこには内容や言葉のニュアンスといった点で改善すべき点があると思う。
- 13 初めて見る人に誤解を招かないように文言を改良すれば、全国区にも広がりうる人間の基本を押さえ
た宣言[である]
- 14 以上の[「がまん」という言葉が使われている、大人の甘えだから、等の]理由から私は、会津っこ宣
言をなくすべきだと考える。
- 15『あいづっこ宣言』は全体的に非常に優れた宣言だ。しかし、今の社会はなにかと物騒な社会である。
少し前の当たり前はすぐ変わってしまう。そのため、時代の流れに応じた言い回しに変えるべきだと
思う。
- 16「あいづっこ宣言」は、内容を簡略化しすぎないようにし、今以上にPRに力を入れるべきである。
- 17 会津藩の「什の掟」をもとに作られた「あいづっこ宣言」は、「什の掟」の良い部分を受け継ぎつつ
現代に合わせて改良した、親しみやすい宣言であるが、悪い意味で解釈できてしまう部分に対しては
教育側が上手く教える必要があるなどの改良できる部分も残されている
- 18 長い歴史のなかで受け継がれてきたある種の伝統であり、尊重すべきものであるが、また同時に時代
にあわせた改善も必要であると私は考える。また、名より実をとるべきであり、つまりあいづっこ宣
言をつくっただけに終始せず、さらなる普及も今後の課題になるだろうと思われる。
- 19 会津の歴史から生まれた価値観を現代でも共有し、役立てることができるということはとても意義深
いことだ。
- 20「あいづっこ宣言」はルールに縛られる頑固な人や年上の人の言う事に理由なく従う人に育てる恐れ
があることと、子どもに伝える大人が宣言の意味をしっかりと理解していないという2つの理由から必
要がないと考える。
- 21 あいづっこ宣言が市のPRとしても、地域住民の道徳になるものとしても成り立たないというのが私
の意見である。
- 22 今のあいづっこ宣言は簡潔である分捉え方にとって危険点が多くある。そのため元号が変わるので新
たに作り変えるべきである。特に「がまんをします」の部分は変えるべきだ。

【2018年度の付箋紙】

- 1 この宣言は新しい元号になったら作りかえてもよい！！
- 2 小学生以外は、やらない
- 3「会津全域に広まっていない」「大人に広まっていない」という意見を聞いて、PRが少したりしていない

のかなと感じた。グループの中でもあいづっこ宣言の文章に関するとらえ方が違ったことにおどろいた。これからは少しあいづっこ宣言を意識して生活してみようと思った。

- 4 世代間の会話のきっかけになる
- 5 宣言が不完全→良い点もある 悪い点もある
- 6 作ったときに大人の意見で作っている
- 7 子どものためだけのあいづっこ宣言ではない
- 8 不完全さが逆によい
- 9 言葉だけ評価して行動は評価しないのか
- 10 年上って誰のこと？
- 11 視覚化することは良い
- 12 家庭やクラスで自分たちのあいづっこ宣言を作ると良い
- 13 小・中・高・大学生の意見を集め、改訂版あいづっこ宣言を作る。ナイスアイデア！
- 14 B 級映画みたいにツッコミどころ満載であいづっこ宣言は話題になる。
- 15 小学生まではあいづっこ宣言暗唱するが、中学生になると何もしなくなる。
- 16 暗唱も大事 行動はもっと大事
- 17 宣言の真のねらいって何
- 18 暗唱する意味がわからない
- 19 やっぱり会津は良い人ばかり！
- 20 会津の三泣き
- 21 作成の方法。大人？ 子供の考えも入れて。
- 22 子どもたちの中で政治が行われていた
- 23 暗唱する意味とは？
- 24 言語化しているからわかりやすい
- 25 会津の誇りって何？
- 26 「夢」って
- 27 大人から子どもへのメッセージがみえない
- 28 小学校では暗唱するところもあるのに中・高ではまったくやらない
- 29 会津っばい（らしい）
- 30 ネットにのせたら炎上しそう
- 31 若松的な考え（若松の人以外には合わない）
- 32 保守的
- 33 「～します」と前向きな言葉なのに、でも最後は「ならぬものはなりません」と社会ルールを守らせる言葉
- 34 什の精神を受け継ぎ現代社会にも違和感がない
- 35 一人前になるための心構え
- 36 人の生き方の道しるべ
- 37 行動の指針として生きる
- 38 本当に全年齢向けの内容？
- 39 日本人的な考え方
- 40 誤解、かんちがいを招きやすい内容

- 41 ネットに載せたら炎上しそう
- 42 時代に合わせたバージョンアップが必要
- 43 今の時代だからこそ大事なこと（でも保守的な内容）
- 44 時代は変わっても人の本質は変わっていない。
- 45 市だけでなく会津全体に広めるべき。
- 46 「夢」という言葉を使っているのが良い。
- 47 ことばや内容のシンプル化
- 48 「愛」ということばがあってもよい 人道愛
- 49 郷土に合ったことば
- 50 儒教的な考え
- 51 一般的な表現
- 52 子どもには広まっている。
- 53 大人の認知度が低い。
- 54 PR 不足
- 55 “がまん” は人それぞれとらえ方が違う。
- 56 能動的、ポジティブな表現が多い。
- 57 あいづっこ宣言は子どもにも大人にも通用するが大人にはあまり広まっていない。
- 58 最初から作り直す。
- 59 キャッチフレーズがよそからでは分からない！
- 60 ほめる要素のあいづっこ宣言
- 61 暗記で終わっているのでは
- 62 我慢をするのが良い！
- 63 誇れる会津を作ろう！
- 64 題命[ママ]「あいづっこ宣言」語呂が良い！
- 65 六にいくにつれて、まわりの人から自分に対しての宣言に変化している！
- 66 市の取り組みがイイ！
- 67 四だけ語尾が「ません」（否定的）なので「ます」に統一してほしい！
- 68 いたわる→やさしく
- 69 自分の「あいづっこ宣言」を！ 言葉をわかりやすく、[ママ]
- 70 道徳があるじゃないか これって必要か
- 71 夢はもたなければいけないのか
- 72 洗脳が良い効果をもたらす場合もある
- 73 大人にも必要なこと
- 74 当たり前のことを当たり前にできるように
- 75 感謝や謝罪の言葉を上手く伝えられないのも会津の土地柄。「不器用」であること。
- 76 個性ってなに？
- 77 ならぬことはならぬは今日日本人には必要なのかと
- 78 同じ思いを保てるのか？
- 79 洗脳は必ずしも悪いのか？
- 80 線引きは難しい

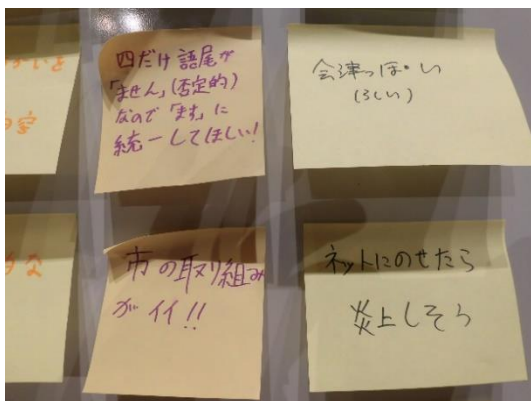
- 81 会津の思想は1つのブランドだと思う
- 82 会津若松市だけでなく会津全域に広めては。親しみやすい PR 大人に広まっていない 大人にも通用するものになってほしい 小さな子でも簡潔な文 「がまんをします」はどのくらいまでどんな時などよくつかめない
- 83 PR のため会津の先人を活用する。例 野口英世とか。綾瀬はるかに言ってもらう。
- 84 「がまん」の範囲を明確にする必要があるのでは・・・。
- 85 歴史と伝統が強く根付いている
- 86 会津若松市だけでなく会津地域に知られてほしい感がある
- 87 大人も守るべき！
- 88 「会津の人はマジメ」というコトバが心に残った
- 89 ほめる要素が必要。←共感！
- 90 「がまんをします」は“時”と“場合”を考えるべき！
- 91 会津の人の気風に合っている
- 92 歴史的価値観を強く反映していると思いました
- 93 「この宣言で何が変わるの？」というコトバが心に残った
- 94 「夢がわからない」という若者のコトバが心に残った
- 95 大人が「あいづっこ宣言」を守ろうという意識がまだ足りない。
- 96 「あいづっこ宣言」の本来の意味の理解が足りず、暗記だけの傾向が強い。
- 97 ことばが難しいという改善はもっとできるのでないか。
- 98 大人が「あいづっこ宣言」を守るべき！！ ←現代において重要！
- 99 大人が行動できているか
- 100 自分だけのあいづっこ宣言があればよい
- 101 個性が失われてしまう・・・？
- 102 会津への関心や思い
- 103 「がまん」は大人になっても大事だ！！
- 104 道徳という授業があるじゃないか
- 105 わざわざ宣言にするまでもない
- 106 「ありがとう」「ごめんなさい」だけでなくその他のもろもろのあいさつも！！
- 107 行動の指針として生きる
- 108 人を人にたらしめるもの
- 109 自ら作っていく考えはすごい良いと思う ←「会津の誇り」を「誇りをもてる会津を作る」という案に対して
- 110 意義を問い直すことは、やはり必要。
- 111 普遍的なものもある。
- 112 大人にも向けて作った感じが薄い。
- 113 若松市内に限定されがち
- 114 「会津の誇り」とは？ →作る必要がある
- 115 四も肯定形にすればいいのに。
- 116 あいづっこ宣言そのものは、他のまちには無い特色として良いものだと思う
- 117 愛がないとつまらない。

- 118 成長すると、すぐにあいづっこ宣言を忘れてしまう ←大きな課題
- 119 「がまん」や「誇り」の本当の意味。
- 120 会津を「誇り」・・・自発的であるべき
- 121 あいづっこ宣言を通して会津の歴史を勉強出来て良かったです。
- 122 「ありがとう」と「ごめんなさい」は別にしてほしい
- 123 当たり前がうすれていく時代に大事
- 124 昔からの会津の掟を風化させず現代に生かしている
- 125 駅や学校に看板があっていい！
- 126 市外出身者が多いグループで、会津に来てから初めて知ったとのことだった。外からの視点で鋭い疑問が沢山出て、会津生まれの自分にはとても新鮮だった。
- 127 年功序列すぎるのでは？
- 128 県外の人達とのいざこざの原因になってしまう？
- 129 個性がなくなる
- 130 全ての人が達成できているのか
- 131 格差を感じる
- 132 あいづっこ宣言から、会津の人が同一の思想になり個性がなくなるかも
- 133 宣言の言い回しにもう少し改善の余地あり
- 134 今後の「AI時代」がどのように進化していくのか楽しみ（あいづっこ宣言等にも使えるのかな）
- 135 低学年でもわかりやすい言葉で表現したほうが良いのでは？
- 136 自分のあいづっこ宣言を作ってみる
- 137 住む所が変わってもある精神性
- 138 夢がない人は・・・？
- 139 会津若松市とかかけてるが、会津地区の人たちはほとんどできないのでは？
- 140 やはり会津の人はこのような宣言が[ママ]作るのでまじめなので、もっとまじめに知られるよう努力すべき
- 141 礼節の基本がわかる
- 142 子どもにもわかりやすい
- 143 宣言の広がりには暗唱があってこそ！！ 始めのベースづくりには力技もときには必要かな
- 144 言葉がやんわりとしていて誤解をうむ可能性がある
- 145 説明しないと誤解されがち
- 146 難しい言葉は伝わりづらい
- 147 まだシンプルにできる
- 148 日本的
- 149 大人用のあいづっこ宣言
- 150 什の掟からぬけきれてない
- 151 絵本でわかりやすく紹介
- 152 “ひらがな化”するのは核心をついていると感じた 地元愛は大切。絵本化してください。（あいづっこ宣言を舞台にした本）
- 153 AR で「あいづっこ宣言」を宣伝したい！！
- 154 保守的 儒教的

- 155 表現がわかりにくい (かんちがいしやすい)
- 156 儒教的な考え方からぬけだせていない
- 157 二つ目 ありがとう、ごめんなさいを親が子どもにやって身につけさせるべき
- 158 国籍に関係なく適用される
- 159 覚えやすい 伝えやすい
- 160 一暗唱一テストがあり驚いた
- 161 言葉が難しく誤解されやすい面もある
- 162 礼節を学ぶ基礎
- 163 市民の提言 行政だけで作ったものではないことがよい 地域の (市民の) 関心の高さ
- 164 社会生活のルール
- 165 子どもだけのものだけでなく大人にもむけてあることが良い
- 166 地域で子供を育てていく責任
- 167 外の人から見ると理解されづらい
- 168 夢のない人達にとって苦痛になりかねない
- 169 子どもには難しい言葉がある
- 170 「あいづっこ宣言」 普及のためにさまざまなことが行われていることを知れた。
- 171 犯罪の減少は「あいづっこ宣言」の提言によるものなのかは少し疑問
- 172 日常生活で大切にしたい
- 173 夢に向かって・・・その夢がない場合しんどくなる
- 174 あいさつ 改めて大事なことである



ホワイトボードに張り付けられた付箋紙を、参加者が眺めている様子 (2018 年 9 月 22 日)



実際に貼られた付箋紙の例 - ここにあるのは、左上から 67, 66, 29, 30 番目のコメント (2018 年 9 月 22 日)

以上、2017 年度の学生レポート、2018 年度の学生レポート、2018 年度のホワイトボードに貼られた付箋紙という、3 つの情報源から、参加者の「あいづっこ宣言」に対する意見を陳列してみた。付箋紙での一言コメントは、グループディスカッションの直後に参加者全員（会津大学生、一般市民、稽古堂職員、ザベリオ高校の高校生）に書いてもらったものであり、その分記憶が鮮明で、コメントもその場での感想に率直なものになっているだろうと思われる。他方、大学生によるレポートは、「あいづまちなかキャンパス」終了して 1 ヶ月後に、（2018 年度ではさらに、参考文献を 1 冊読んでもらった上で）書いてもらったものなので、考えが整理された後に出てきた意見だと見做すことができるだろう。ちなみに、付箋紙での一言は全体で 174 枚と、かなり多いが、レポートは学生 1 人につき 1 本であったのに対し、付箋紙は 1 人につき「できるだけたくさん」記入することをお願いしたので、数に開きが生じている。

レポートの意見がそれぞれ 50 件（2017 年度）、22 件（2018 年度）あり、付箋紙での一言（2018 年度）は 174 件あるので、本来は意見の分類や、定量的な分析も行うべきところであるが、それにはもう 1 本別の論文が必要になるであろうから、ここでは控える。次の節では、レポートや付箋紙の諸意見を通覧した上での、定性的な（本論では哲学的な関心から）特徴を描き出していきたい。

5. 考察

レポートや付箋紙の「あいづっこ宣言」に対する諸意見を通覧すると、実に、様々だと気付かされる。しかし、一筋の本質的特徴を、諸意見の比較から掬い出すこともできると私は考えている。それは、「会津藩家訓」や「什の掟」の江戸時代からの行動規範から、「あいづっこ宣言」に見られる平成時代での行動規範への考え方の移り変わりと、そのバックグラウンドにある＜思想的背景の移り変わり＞である。

何名かのコメントが正しく指摘していたように、会津藩家訓や什の掟の根底にあるのは、儒学思想である。それは、江戸時代後期の日新館での教育が、『論語』『大学』などの素読に基づく、暗唱を基本としていたことから明らかであり、現代のあいづっこ宣言の教育も、暗唱をベースとしているところにその連続性（遺産）を見て取ることができる。

それに対し、あいづっこ宣言は、基本的な礼節やルールを確認しながらも、家訓や什の掟に見られるような絶対従属性は後退し、戦後民主主義（西洋近代以降の思想）を表象するような、主体性・自発性を重んじる傾向性が見られるようになっている。江戸時代の「～なりませぬ」という「上」からの／縦方向の命令口調に対し、「～します」という、能動的／水平的な表現が多く使われているのが、その証左である。これは言うまでもなく、江戸時代から明治、大正、昭和、平成時代へと移るにつれて、封建的な思想が後退し、西洋近代的な民主（水平）的な思想が台頭してきたからに他ならない。

この封建的 vs 民主（水平）的という対立は、様々な対立軸の表出という形で、繰り返し、参加者のレポートや付箋紙コメントに現れてきている。いくつか顕著なものを、ピックアップすると、

歴史・伝統 VS 現代
保守的 VS （——）
暗唱 VS （——）
年上 VS 若者
共同体 VS 個人（自分）
閉鎖的 VS 発展的
日本的 VS （——）

会津地区からの参加者 VS 非会津地（全国）区からの参加者
否定形・禁止 VS 肯定形・積極・能動

といった多くの対立軸が挙げられるだろう。なお、注意しておきたいのは、封建的な「あいづっこ宣言」の性格を強調する意見ばかりでなく、それが能動的、普遍的、分かりやすい、というプラス評価もあったことである。このように、あいづっこ宣言の「近代的」性格を指摘する意見もあり、対立軸の極の理解においても、参加者の考えは決して一枚岩ではないことが分かる。あいづっこ宣言のどの部分を／どのように見るかによって、あいづっこ宣言の性格付けも異なった現れ方をしてくる、ということである。

哲学・思想という視点からみて、この「まちなかキャンパス」参加者の意見・コメントから浮き上がってくる興味深い事実というのは、日本人の行動規範に対する意識は、現代においても決して一枚岩的なものではなく、振れ幅における保守的な極と現代的な極との間を、絶えず揺れ動いている、ということである。これは言い換えると、日本人の行動規範というのは、東洋的・儒教的なものの考え方と、西洋的・近代的なものの考え方の狭間に位置し、それぞれの場面や状況、文脈に応じて、異なった際立った現れ方をしてくる、という事を意味している。とりわけ、会津若松という（会津地区の中でも）特異な歴史伝統を持つ地域ならではの、ローカルな規範という形をとる「あいづっこ宣言」は、日本全国からの住居者が集う都市部などと比べ、そうした日本人の規範受容史の痕跡を色濃く残していると言える。これが、本論から浮かび上がってくる、＜日本人の哲学＞の特質であると考えられる。

本論を締めくくるにあたり、「あいづっこ宣言」の運用・効果などについて、幾つかの手厳しい（と思われる）意見も述べておきたい。参加者のコメントからも、こうした意見がすでに述べられていたのは、前節での参加者によるコメントを見れば明らかである。

第一に、「あいづっこ宣言」は当初の目的をはたして達成したのか、という疑問である。そもそもあいづっこ宣言は、平成14年よりも前の、全国及び会津地区での青少年犯罪の増加を憂えて、それに対する家庭・学校・地域の共通指針として策定されたものであった。しかし、家庭や地域には未だ普及していないし、理解においても相当のバラつきがある。これでは、「共通指針」としてのあいづっこ宣言の役割は、スタートの時点から期待することができない。市民や学生によるコメントが指摘していたように、普及活動において、更なる努力や工夫が必要である。

第二に、そもそも、「あいづっこ宣言」の効果を測定するような動きがないことも問題である。「やりっぱなし」の状態にあるので、何らかのフォローアップが必要であろう。少なくとも、あいづっこ宣言を策定した＜前後＞で犯罪率が変化したのかを調べたり、会津若松市と似たような人口構成・経済状態にある都市と、あいづっこ宣言がある会津若松市との＜都市間＞で犯罪率が異なるのか、といった調査が、効果を実証的に確認するためには必要である。

第三に、そもそも標語の暗唱によって、規範意識や、規範的行為が身に付くのか、という問題がある。これは道徳教育全般の問題であろうが、深い理解が伴わない丸暗記のルール暗唱が、どれだけ道徳的行為を促進することになるのか、かなり込み入った理論なり実践調査が必要になる筈である。歴史を見ると、実際の「什の掟」では、什というグループの中で、習慣的な規則確認や、体罰を含む罰則が含まれていた。そういったシステムだったのである。こうした習慣性や罰則性を含まない、ルール暗唱という手法そのものに対する懐疑論が極めて希薄である（ナイーブすぎる）と、言わざるを得ない。

実態としては、小学1年生に暗唱を推奨し、合格証を発行するぐらいのプログラムに留まっているので

はないだろうか。私の子供は1年生の折に、私に嬉々として合格証を見せてはくれたが、その後「あいづっこ宣言」の言葉を発することは一切なくなってしまった。

唐突と思われるかもしれないが、これは会津地区の至るところで確認できる「箱モノ」行政を思い起こさせる。大きな建物を建設業者が請け負い、建築してオシマイ、あとは自分たちで使ってねと丸投げする。有効な使い方、コーチ方法なども込みで実行しないと、「あいづっこ宣言」も効果が出てくることは期待できない。

以上、共通指針としての認識、効果検証、教育プログラム、という3点から疑義を提起した。「あいづっこ宣言」を、単なる絵に描いた餅に留まらせるのではなく、実体のある認識、効果、プログラムを伴ったものとするには、今後も市民や学校関係者を巻き込んだ、継続的な議論が必要不可欠である。本論4節が示したような、学生や市民の声に耳を傾けながら、「あいづっこ宣言」についての＜議論＞そのものを起こしていく仕組みづくりや工夫が、「あいづっこ宣言」を剥製に終わらせないために必要であろう。

注

- 1) 実は、会津に初めてやってきた頃、私は、これを「ならぬものはならぬものです」のように理解して、全く誤解していたようである。「出来ないことは頑張ってもやはり出来ないのだから、やっても仕方がない、諦めなさい」と言っているのだと思い込んでいた。何て淡泊なんだろう、そもそもそんな事を標語にする必要があるのか、と訝しがっていた。
- 2) 「あいづまちなかキャンパス」に至った経緯、大学授業を一般市民にも公開することの利点等については、青木・南雲(2017); 青木(2019)を参照されたい。
- 3) 2017年度、2018年度ともに、会津若松市のホームページで様子が公開されている。
会津稽古堂・会津大学 協働事業「あいづまちなかキャンパス～日本人を『哲学』する！～」を行いました
[<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2017072000027/>];
会津稽古堂・会津大学協働事業「あいづまちなかキャンパス（哲学）」を実施しました（事業終了報告）
[<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2018092600037/>] なお、これら2つを含め、以下に掲載されるURLはすべて、論文執筆時（2019年2月）に確認したものである。
- 4) 野口(2005), p. 131.
- 5) “あいづっこ宣言”の内容 [<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2007080601668/>]
- 6) “あいづっこ宣言”の策定経過 [<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2007080601651/>]
- 7) 同上
- 8) “あいづっこ宣言”の取り組み状況 [<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2007082000056/>]
- 9) 実際、星悠斗主事による説明を聞いて、「あいづっこ宣言って、子供向けのルールではなかったんだ・・・」と気付いた会津若松市民・会津大学生は大勢いた。このように、何も努力もしない状態では、策定に込められたオリジナルな意図や思いが、多くの市民に／長い時間にわたって伝えられていくことは難しい。

【参考文献】

- 青木滋之・南雲誠 —(2017) 「「あいづまちなかキャンパス」の試み —公民館と大学の強みを活かそう—」, 『社会教育』No.856, 2017年10月1日, pp. 28-35.
- 青木滋之 —(2019) 「学生を街中に放て —「あいづまちなかキャンパス」の試み—」, 第68回東

野口信一

北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会『研究集録』, 2019 年 2 月 1 日, pp. 122-126.
—(2005)『会津藩』, 現代書館